

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(B) 4. 研究期間 平成22年度～平成25年度
5. 課題番号 2 2 4 0 2 0 4 9
6. 研究課題名 日系国際児の二言語形成過程の質的研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 3 5 0 5 6 6	<small>シバヤマ マコト</small> 柴山 真琴	家政学部	教授

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
0 0 1 8 8 0 3 8	<small>タカハシ ノボル</small> 高橋 登	大阪教育大学・教育学部	教授
8 0 4 0 9 7 2 1	<small>イケガミ マキコ</small> 池上 摩希子	早稲田大学・ 日本語教育研究科	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究は、二言語の会話力と読み書き能力が大きく変化する幼児期から児童期の二言語形成過程を継続的・多層的に捉え、これまでブラックボックスのままであった二言語形成の実践過程を、ドイツ居住の独日国際児の事例に基づいて具体的に解明することを目的としている。そのために、以下の3つの調査を3年間にわたって継続的に行う。

[調査1] 日誌法による日常活動の記録
 [調査2] 対象児の通学校他でのフィールド調査
 [調査3] 日本語とドイツ語における会話力と読み書き能力の測定

平成23年度は、研究計画に基づいて、上記調査を以下のように実施した。いずれの調査においても貴重なデータを収集することができた。

[調査1] 二言語発達上重要な年齢の子どもがいる独日国際家族の母親に依頼して、日誌法による観察データを継続して収集した。

[調査2] 2011年10月27日～同11月3日まで、ドイツ・バイエルン州で海外調査を行った。対象児が通う日本語補習授業校および現地校で、授業参観・教師との面談・資料収集を行った。また、国内調査として、東京横浜独逸学園でフィールド調査を行った。

[調査3] 日本語検査(ATLAN・読み課題・読解課題・お話作り課題・作文課題)とドイツ語検査(ELFE、お話作り課題・作文課題)を行い、対象児の二言語の発達状態の2年次測定を行った。

いずれの調査データについても、年度末に中間分析を行い、研究討議を行った。また、前年度のデータ収集と分析に基づいて、学会発表と学術論文誌への投稿も行った(1編は既に採択が決定している)。

10. キーワード

- | | | | |
|------------|-----------|--------------|----------|
| (1) 教育系心理学 | (2) 二言語形成 | (3) 日系国際児 | (4) 質的研究 |
| (5) 日誌法 | (6) 言語検査 | (7) フィールドワーク | (8) |